

公益財団法人さんりく基金
平成 28 年度第 1 回評議員会 議事録

1 開催の日時及び場所

- (1) 日時 平成 28 年 6 月 8 日 (水) 午前 11 時 00 分から午前 11 時 50 分
- (2) 場所 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号 岩手県民会館第 4 会議室

2 評議員の現在数 評議員 7 名

3 出席者

- (1) 評 議 員 大平 尚 評 議 員 菅原 悦子
評 議 員 中居 正剛 評 議 員 橋本 良隆
評 議 員 山口 公正 評 議 員 山崎 秀樹

(2) 役員

業務執行理事 宮野 孝志

(3) 事務局

事務局 長 菅原 健司 次 長 柏葉 保行
事務局 員 藤原 杏奈 事務局 員 川村 泉

4 欠席者

評 議 員 角田 陽介

5 議長

山口 公正

6 決議事項

- 第 1 号議案 議事録署名人の選出について
- 第 2 号議案 平成 27 年度事業報告及び附属明細書の承認について
- 第 3 号議案 平成 27 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び財産目録の承認について
- 第 4 号議案 平成 28 年度収支予算（補正第 1 号）の変更の承認について

7 議事の経過

午前 11 時 00 分開会した。

宮野業務執行理事から、評議員現在数 7 名中、本人出席 6 名により、定款第 20 条に定める定足数を満たしており、本評議員会は成立する旨を告げた。続いて、山口議長からあいさつがあり、以降の進行は、山口議長により進められた。

報告 「職務執行の状況について」

議長は、報告を求め宮野業務執行理事が報告した。

議長が、報告について質問、意見を求めた。

【大平評議員】

イベント開催助成事業について、申請状況について教えてほしい。

【菅原事務局長】

2件の申請があり、どちらも大船渡市の団体である。事業内容としては、1件は、沿岸各地での花火大会の開催。もう1件は、郷土芸能や海外の伝統芸能のステージという祭りイベントである。今後、この2件について、審査委員会において審査を行う予定である。

その他、特に発言はなく、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案「議事録署名人の選出について」

議事録署名人について、議長一任とされたので、議長は大平評議員と中居評議員の2名を指名した。

第2号議案「平成27年度事業報告及び附属明細書の承認について」

第3号議案「平成27年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び財産目録の承認について」

議長は、第2号議案と第3号議案について関連があるとし、事務局に一括して説明を求め、菅原事務局長が説明した。

議長が、第2号議案、第3号議案について一括して質問、意見を求めた。

【橋本評議員】

8ページの「研究開発シーズ事業化事業」について、助成件数が0件であるが、実際には申請があつての0件なのか、そもそも申請がなかったのか。

【菅原事務局長】

当初は、3件の採択を計画していたが、これに対して申請が1件であったもの。この1件について、審査委員会で審査したところ、前年度と同じ事業者であったこと及び事業効果を勘案して、効果が薄いということで不採択となったものである。

議長が、他に質問、意見を求めたが、特に発言はなく、第2号議案及び第3号議案の賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを可決した。

第4号議案「平成28年度収支予算（補正第1号）の変更の承認について」

議長は、第4号議案について事務局に説明を求め、菅原事務局長が説明した。

議長が、第4号議案について質問、意見を求めたが、特に発言はなく、第4号議案の賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを可決した。

議長が、その他質問、意見を求めた。

【大平評議員】

色々と助成事業を実施しており、地域コミュニティ再生支援事業や被災地青少年育成事業等で備品等への補助も行っているが、さんりく基金からもらったという表示等はやっているか。

【菅原事務局長】

要項等で、さんりく基金の助成事業を活用した旨の表記をすることをお願いしている。採択になった団体に対しても、徹底してお願いしている。

事業については、年度途中で助成事業者へ直接訪問して、中間の進捗状況等を確認しているので、その機会をとらえながら、基金事業の明示等についても徹底していきたい。

【大平評議員】

要は、さんりく基金をもっとPRしなければいけない。子どもたちのピッチングマシン等色々あるようなので、シールを作って配るなどして、こういった助成によって活動ができているということをPRできればよい。

【菅原評議員】

色々な事業を実施しているが、効果の検証はどのように実施しているのか。

【菅原事務局長】

効果検証については、具体的に数値化してどの程度の効果があったのかというところまでは抑えきれていない。昨年度については、助成事業実施の効果についてのアンケート調査を実施したところであり、「売上が向上した」や「販路が拡大した」といったところを確認するとともに、今後のニーズということでもどのような支援が必要なのかを併せて確認しながら、今後の見直しの参考にしている。

【菅原評議員】

その報告は、そのうちここにもあがってくるのか。

【菅原事務局長】

まだ報告できていなかったもので、ご報告できるようにしたい。

【山口評議員】

交流人口の実績や売上等を数値化するなど、成果についてもできればお知らせしてくれればよい。

【菅原評議員】

成果について新聞等で公表するなどすれば、基金が上手く活用されているということがより皆さんに分かって頂けると思う。

【中居評議員】

久慈市も特産品開発事業等でたくさん助成頂いて、関係団体等から助かっているという話を聞いている。今後ともよろしくお願いします。

【山崎評議員】

今年度のイベント開催助成事業に申請している団体についてだが、継続して被災地に入っているが、三陸沿岸の地区毎で小規模にやっているの、啓発されないまま進んでいる印象。出来ればイベントの宣伝をもっとした方がいい。知らないうちに終わってしまっていて、いまいち周知されていないような気がする。運営の仕方については、注意して欲しい。

物産関係については、評価は当然必要だろうと思う。それぞれの事業者が次の目標になるような成果をきちんと出して頂ければよい。

【菅原事務局長】

イベント事業については、2件とも継続の事業である。今までの事業を拡大しながらやっていくという趣旨ではあるかと思うが、継続事業であるので、事業効果、今後の継続性についても審査のポイントになるかと考えている。審査委員会を通じながら、採否を含めて検討していきたい。

各種助成事業についてであるが、今までは、早期の復旧・復興に向けた取組を重点的に支援することを基本的な考え方とし、できるだけ多くの申請者に対して助成をしてきたところであるが、今年度については、復興の先を見据えた総合的な振興という観点で事業を進めており、ご指摘のあった成果というものを重視しながら支援をしていくことを考えていきたい。

【山口評議員】

28、29年度あたりで住まいの再建の目途が付いてくる。30年度からは地方創生など次のステージへ移行していかなければならない。むしろそうした面をご支援いただければという思いがある。さんりく基金を有効に活用しながら三陸地域の振興に繋がっていければよい。

以上をもって議事の全部の審議及び報告等が終了したので、議長は午前 11 時 50 分閉会を宣し、解散した。